

落石対策に関する研修会の報告

地盤工学会四国支部
落石対策研究委員会
委員 右城 猛

1. まえがき

地盤工学会四国支部では、四国の地形地質特性を踏まえた落石対策について研究すると共に、四国の地形地質に適合した落石防護ネットの研究開発を行うことを目的として、平成19年7月に落石対策研究委員会(委員長 矢田部龍一)を設立し研究活動を続けてきた。新しく開発した落石防護ネット「ロングスパン」の公開実験を平成20年5月27日に終えたことから、これまでの研究成果を広く一般の土木技術者に公表し、普及させたいと考えていた。

一方、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所(所長 恒石和義)では、地域貢献の一つとして、南予地域で建設工事を発注する土木技術職員のレベルアップを図るための技術研修会を開催することが計画されていた。

そのようなことから、表記の研修会が四国地方整備局大洲河川国道事務所の2階会議室で開催された。国土交通省四国地方整備局と地盤工学会四国支部が協力してこのような研修会を開催するのは初めての試みであったが成功裏に終えることができた。研修会の概要を以下に報告する。

2. 研修会の概要

開催日時 2008年6月10日 13時30分～16時
場 所 大洲河川国道事務所 2F会議室
主 催 地盤工学会 四国支部
共 催 愛媛大学防災情報研究センター
後 援 大洲河川国道事務所

3. 研修会プログラム

開会の挨拶 愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 鳥居 謙一
技術開発の枠組みと検討内容 落石対策研究委員会 愛媛大学教授 矢田部龍一
落石対策における最近の話題 落石対策研究委員会 委員 右城 猛
新しい落石防護ネットの紹介 落石対策研究委員会 幹事長 筒井秀樹
質疑応答
閉会の挨拶 大洲河川国道事務所長 恒石 和義

4. 参加者

南予地方局西予土木事務所(7人)、南予地方局八幡浜土木事務所(2人)、大洲市(11人)、西予市(3人)、宇和島市(7人)、八幡浜市(1人)、松野町(2人)、鬼北町(1人)、内子町(4人)、愛南町(9人)、西日本高速道路(株)四国支社(6人)、大洲河川国道事務所(20人)、野村ダム管理所(1人)、合計(74人)

5 . 研修風景



鳥居教授による開会の挨拶



矢田部教授による落石防護ネット「ロングスパン」の開発の経緯等に関する説明



落石対策研究委員会の右城委員からは、「落石防護工の設計における技術基準の動向，落石の運動エネルギーの予測，落石防護柵及び基礎の設計，落石防護ネットの設計」についての話題提供があった。



落石対策研究委員会の筒井委員からは、「落石対策工法の種類，工法選定上の留意点」に対する説明，そしてビデオによる落石防護ネット・ロングスパンの実験状況が紹介された。



落石防護ネット・ロングスパンの重錘衝突実験の様相



フロアーからの熱心な質問

6. 研修会に関する受講アンケート

下記のアンケート用紙を配布し、研修会終了後に提出してもらった。

| | | |
|---|----------|-----------|
| 落石対策研修会受講アンケート用紙 | | 地盤工学会四国支部 |
| 本日はありがとうございました。下記のアンケートに協力願います。 | | |
| 本日の落石研修会は有意義でしたか | | |
| 非常に有意義 | 有意義 | 普通 |
| あまり有意義でない | 全然有意義でない | |
| (研修話題 1) 落石対策における最近の話題 (落石の実態や設計法に対して) | | |
| 非常に理解が深まる | 理解深まる | 普通 |
| あまり理解深まらず | 全く理解深まらず | |
| (研修話題 2) 新しい防護ネットの紹介 (落石対策工ならびに落石防護ネットに対して) | | |
| 非常に理解深まった | 理解深まった | 普通 |
| あまり理解深まらず | 全く理解深まらず | |
| 今後、受講したい研修内容について自由に記入ください | | |
| () | | |
| 所属 | 国 | 市・町 |

アンケートの結果は以下のとおりであった。

本日の落石研修会は有意義でしたか

非常に有意義(15人,27%) 有意義(35人,63%) 普通(5人,9%) あまり有意義でない(1人,1%) 全然有意義でない(0人,0%)

(研修話題1) 落石対策における最近の話題 (落石の実態や設計法に対して)

非常に理解が深まる(11人,20%) 理解深まる(37人,66%) 普通(7人,13%) あまり理解深まらず(1人,1%) 全く理解深まらず(0人,0%)

(研修話題2) 新しい防護ネットの紹介 (落石対策工ならびに落石防護ネットに対して)

非常に理解深まった(11人,20%) 理解深まった(28人,50%) 普通(17人,30%) あまり理解深まらず(0人,0%) 全く理解深まらず(0人,0%)

今後、受講したい研修内容について自由に記入ください

耐震補強などの新技術、四国の断層、落石を含む道路防災技術、環境に配慮した石積み、のり面の土質(現場見学も)、新工法、防護柵の種類と工法、落石の実態と設計法、コスト削減のため現実の度圧に対応した擁壁の設計、地震時ののり面崩壊、のり面の地すべり調査と対策

所属 国(6人)、県(9人)、市・町(25人)、民間・その他(8人) (のつけない方もいた)

7. あとがき

四国地方整備局大洲河川国道事務所の会議室をお借りして、大洲河川国道事務所と地盤工学会四国支部が協力し合って開催するという初めての試みであったが、会場の定員70名を超える74名の方々に参加していただき、研修会を無事終えることができた。

今、地方は、財政が破綻寸前の状態にある。そのような中で道路特定財源が一般財源化され、公共事業予算は大幅にカットされた。安全安心な国土および道路を整備し維持していくためには、新しい技術、高度な技術を駆使し、所要の安全性を確保しつつ大幅なコスト縮減を図る工夫が求められている。今回の研修会が、いささかなりとも役に立てば光栄である。また今後、四国各地でこのような研修会を開催できることを願っている。

今回の研修会を開催するにあたっては、大洲河川国道事務所の恒石所長、武本工事情質管理官をはじめ多くの職員の皆様にお世話になりました。心より感謝申し上げます。